



安全、安心してなんとぞもやろ

関 電さんが電気料金下げるそうすなあ。

福井県の若狭湾にある高浜発電所が動くようなので、僕ら関西の中小企業は一安心です。中小企業にとっては、電気料金の高いのは大きな悩みのタネなんです。

実際、工場の製品いうんは、電気のかたまりみたいなんもんやからねえ。

大阪高等裁判所は、福島第一原子力発電所の事故後に定めた新規基準を、現在の科学技術水準を踏まえた合理的なものと評価しています。

まあ、そう言うても、心配やと言う声は、当然あるでしょう。いろいろ規制しても、「絶対」、事故が起こらんと証明できるんか?という疑問も当たり前やと思います。

そやけど、「絶対安全」なんてありっこないのも、皆わかっ तरीますやろ。

例えば、普通の生活しとつても、道歩けば自動車にはねられるかもしません。

交通事故死は、今、劇的に減っているようですが、二〇一六年には、まだ四〇〇〇人弱の方が亡くなっています。

これ絶対安全ではありませんねえ。
ウチにおつても、空から飛行機が落ちてくるかもしれん。

いや、ことによると、よその国からミサイルが飛んでくるかもしれない、という世の中です。

個人的に言うなら、いつ、がんや心筋梗塞、脳卒中になつても、おかしくない年齢にもなりました。僕も友達をこれらの病気で、ポツポツ亡くしています。

それでも、日本はまだましやと思います。医療や社会保障はまだ機能しています。

世界を見回すと、難民やら紛争やらテロやら、大変なニューズばかりです。

ヨーロッパでは、長年連れ添ったイギリスがEUと別れたり、アメリカでは、永住権もつてた人が、急に入れんようになったり、アジアの海では、かってに島の上に基地つくった国があったり、エライことになっています。

世界中ぶつそんな世の中になっています。

**いくら安全と説明しても、
安心できへんて、なんでしようかなあ**

そんな中で、よく言われますけど、安全と安心の違い、なんでしようかなあ。

いくら数値で安全と説明しても、安心できへんて、なんで



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)

1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。



しようかなあ。

基準値の何倍、なんていう表現も、ようわかりませんねえ。

最近、東京の豊洲市場への移転で話題になってるベンゼンの基準値は、一日二リットルの地下水を七〇年飲み続けても健康に有害な影響がない濃度、と言うことらしいです。

すごいですなあ。

こういう例えはわかりやすいですけど、ベンゼンの入ってる水を二リットル、七〇年飲むなんて、ようやりません。

では、この基準値(二リットル当たりベンゼン〇・〇一ミリグラム)の最大一〇〇倍のベンゼンが検出されたという報告は、どう考えるんですやろう。

元が小さいものの一〇〇倍だから、それでも大丈夫なんか。一〇〇倍やから危ないのか。素人にはわかりませんわねえ。

東京都の専門会議は「科学的に安全」と言うてます。

さらに地上と地下は、違うとも言うてます。

専門家が言うなら、まちがいないやろ、と考える人と、専門家なんかもう信じられへん、と思う人と、どっちの人もいるやろうと思います。

**世の中複雑になって
素人にはわからないことばかりです**

なんぎですなあ。

世の中複雑になって、僕らのやった宇宙もそうですが、原子力や、遺伝子工学や、そして環境問題……。

どれとっても門外漢には、わからないことばかりです。

数値が飛び

かかって、その数字を指して、危

ない危なくな

い、と言いつつ

てるのを聴い

ても、普通の人間には、わから

ないことだら

けです。

どっかで、折

り合う議論はできないでしょうか。

「安全」言うんは、例えば悪いかもしれませんが、テロ対策で、

警察官や軍隊がブラリと警備してて、警察犬や爆発物感知器が待機している、そんなイメージを思い浮かべますけど、それでもテロは、起こりますから、やはり絶対安全とはいえませんが、それでも、それだけ警備しとるなら、危険の可能性は確かに減ってるはずですよ。

そんな警備体制とともに、テロをつくりだす貧困や対立を減らす努力も、せにやなりません。

そういうことが、人々の安心につながってくるのやないでしょうか？

安全、安全と強調ばかりしても、安心は見えてきません。そこに人の温もりを入れねば、と僕は思います。

みなさんはどう考えられますか？

はじめに

- ベンゼンはIARCグループIに分類される発がん物質で、大気環境基準は3 µg/m³。
- 発生源としては、自動車排ガス、タバコ煙、燃焼器具からの発生などが知られている。
- 有機物の燃焼に伴って発生し、燃焼温度が低い方が多く生成する。
- 平成17年～18年に実施した都内オフィス喫煙室(n=26)の調査では、喫煙室内のベンゼン濃度は環境基準の2倍～19倍*。

*大貫ら、喫煙室及び非喫煙場所における室内空気中たばこ由来化学物質の暴露調査、室内環境、14(1)、p43-50、2011

●ベンゼンは、排ガス、タバコ、線香などからも発生するので、十分な換気が必要とのこと。
〔線香、お香及び蚊取り線香の煙中ベンゼン濃度〕東京都健康安全研究センター-薬事環境科学部環境衛生研究科 斎藤育江より